



Red Hat 3scale API Management 2.10

オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.10 向けリリースノート

Red Hat 3scale API Management 2.10 向けドキュメント

Red Hat 3scale API Management 2.10 オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.10 向けリリースノート

Red Hat 3scale API Management 2.10 向けドキュメント

法律上の通知

Copyright © 2021 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、Red Hat 3scale API Management 2.10 の最新機能およびテクノロジープレビュー機能に加えて、解決された問題、関連ドキュメント、および既知の問題について説明します。

目次

前書き	3
第1章 新たな機能	4
1.1. 主要な機能	4
1.2. その他の機能	4
第2章 テクノロジーレビューの機能	5
第3章 解決された問題	6
第4章 既知の問題	7
第5章 ドキュメント	8
第6章 3SCALE の変更点	9
6.1. 3SCALE と支払いゲートウェイのインテグレーション	9
6.2. 非推奨の機能	9
6.3. 廃止された機能	9
6.4. 今後の変更	9
多様性を受け入れるオープンソースの強化	10

前書き

本書は、オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.10向けドキュメントです。

第1章 新たな機能

1.1. 主要な機能

- ゼロダウンタイムアップグレードがサポートされるようになりました ([JIRA #4722](#) および [JIRA #4723](#))
- operator の追加機能拡張: Grafana および Prometheus を使用した System および Zync コンポーネントのリソース監視が追加されました ([JIRA #4743](#) および [JIRA #4744](#))。
- OpenShift 4.x デプロイメントにおいて、外部データベースとして Oracle がサポートされるようになりました ([JIRA #2998](#))。
- APIcast ゲートウェイで、SSL/TLS および HTTP/2 トラフィックの復号化および暗号化に関連する全操作専用、FIPS 140-2 対応の検証済み暗号モジュールがサポートされるようになりました ([JIRA #5337](#))。
- リクエストおよびレスポンスのペイロードサイズに制限を設定できるようになりました ([JIRA #5244](#))。
- APIcast の IP Check ポリシーで PROXY プロトコルがサポートされるようになりました ([JIRA #5366](#))。
- 更新された Dashboard およびプロダクトおよびバックエンドのスタンドアロンページにおいて、ユーザーエクスペリエンスおよびユーザーインターフェースが改善されました。

1.2. その他の機能

- シングルサインオンがアカウントに適用される場合、ユーザーが自動的にリダイレクトされるようになりました ([JIRA #2795](#))。
- ActiveDocs を読み取るための GET エンドポイントが **Account Management API** に追加されました ([JIRA #5826](#))。
- **proxy config** および **/admin/api/service.json** エンドポイントのパフォーマンスが向上し、サービスが多数ある場合に迅速に設定を取得できるようになりました ([JIRA #4528](#))。
- 特定コンポーネントのデバッグを行うためのリソース監視が追加されました ([JIRA #4801](#))
- 3scale operator にストレージ領域の設定機能が追加されました ([JIRA #3652](#))。
- APIcast operator でリソース要件をカスタマイズできるようになりました ([JIRA #5964](#))。
- Caching ポリシーのデフォルト値が空になりました ([JIRA #1514](#))。
- URL Rewriting with Captures ポリシーの機能が拡張されました ([JIRA #6270](#))。
- 3scale 管理ポータルで **Account Settings** がコンテキストスイッチャーに表示されるようになりました ([JIRA #6241](#))。
- インストールの完了後、namespace の OpenShift Dashboard で 3scale マスターアカウントポータルへのリンクを取得できるようになりました ([JIRA #5444](#))。

第2章 テクノロジープレビューの機能

- 高可用性 (HA) OpenShift テンプレートおよび評価用 (Eval) OpenShift テンプレート [JIRA #1168](#)。
- 3scale operator の機能: カスタムリソースを使用して 3scale テナント、API、プラン、制限、メトリクス等を定義し、それらを 3scale インストール環境に設定することができます ([JIRA #1798](#))。

第3章 解決された問題

- Stripe および Braintree 支払いゲートウェイとのインテグレーションに変更が加えられました。
 - 3scale を 2.10 にアップグレードする **前に**、これらの支払いゲートウェイとのインテグレーションの影響を理解するようにしてください。これらの影響については、「[3scale の変更点: 3scale と支払いゲートウェイのインテグレーション](#)」で説明します。
 - Stripe とのインテグレーションによる請求機能の使用:
 - 強力な顧客認証 (SCA) が適用される場合にクレジットカードに課金できない問題が解決されました ([JIRA #6515](#))。
 - これらの修正により、**課金失敗** の電子メール応答の文章が更新されました ([JIRA #6767](#))。
 - 3scale に Stripe を設定する手順に関するドキュメントは、まもなく利用可能になります。
 - **アップデート:** 3scale と Stripe のインテグレーションに関する詳細は、「[クレジットカードゲートウェイとしての Stripe の設定](#)」を参照してください。
 - Braintree とのインテグレーションによる請求機能の使用:
 - 3scale 2.10 の提供するソリューションは、3DS (3D セキュア) バージョン 2 が有効な Braintree アカウントにのみ対応します。詳細は、「[既知の問題: Braintree とのインテグレーション](#)」を参照してください。
- デベロッパーポータルで、OpenAPI Specification 3.0 のオートコンプリート機能が動作しません ([JIRA #6088](#))。
- OpenShift 4 では、APIcast へのカスタムポリシーの追加に失敗します ([JIRA #5515](#))。
- YAML ファイルで定義されるマッピングルールの位置が考慮されません ([JIRA #5747](#))。
- API へのアクセスが許可されないユーザータイプのメンバーであっても、ActiveDocs を表示および変更することができます ([JIRA #952](#))。
- プライベートベース URL に API の完全なドメイン名を指定することができます ([JIRA #4752](#))。
- **Trash** 内のメッセージを表示または復元することができません ([JIRA #1503](#))。
- マッピングルールの **Search** 機能が正しく機能しません ([JIRA #5817](#))。
- OAS 3.0.2 仕様をインポートする際、3scale toolbox はバックエンド定義のカスタムポートをデフォルトのプロトコルに変換します ([JIRA #6192](#))。
- operator の概要ページに表示される **3scale-operator** バージョンが正しくありません ([JIRA #5631](#))。
- 同じ OCP プロジェクトに複数の **apicast-** サービスがあると、APIcast エラーが生じます ([JIRA #6315](#))。

第4章 既知の問題

- Braintree とのインテグレーション: 3DS バージョン 2 が有効ではない Braintree アカウントと統合した状態で 3scale 2.10 にアップグレードした場合、支払いインテグレーションは機能しません。この問題への対応策は 2 つあります。
 - 3DS バージョン 2 が有効な Braintree アカウントと 3scale を統合する。
 - 3DS が有効ではない Braintree と統合するためのソリューションが利用可能になるまで、3scale 2.10 にアップグレードしないことを検討する。
- Prometheus および Grafana を使用した 3scale の監視が、誤った値を表示します (JIRA #6446 および JIRA #6403)。
- クラス名で検索した場合、Sphinx 検索は既存のレコードをすべて返します (JIRA #6405)。
- 新しく作成されたサービスおよびバックエンドが次の日にインデックス化されるまで、これらの項目を検索することはできません (JIRA #6205)。
- 3scale のデプロイ時に、System/Zync がルートの作成に失敗することがあります (JIRA #6391)。

第5章 ドキュメント

サポートされる構成

- アーティクル「[Red Hat 3scale API Management のサポート対象構成](#)」で、3scale 2.10 のサポート対象構成に関する最新情報を確認してください。

セキュリティーアップデート

- [Red Hat セキュリティーアドバイザリー](#) ポータルで、3scale 2.10 のセキュリティーアップデートに関する最新情報を確認してください。

エラータ

- RPM アドバイザリー: <https://errata.engineering.redhat.com/advisory/59961>
- コンテナイメージアドバイザリー: <https://errata.engineering.redhat.com/advisory/59962>

アップグレードガイド

- 以下のデプロイメントについて、3scale インストール環境を 2.9 から 2.10 にアップグレードする手順を確認してください。
 - [テンプレート](#) ベース
 - [operator](#) ベース

第6章 3SCALE の変更点

本セクションでは、3scale 2.10 の現在および今後の変更を説明します。

6.1. 3SCALE と支払いゲートウェイのインテグレーション

- 3scale 2.10 では、Stripe および Braintree 支払いゲートウェイとのインテグレーションに変更が加えられ、強力な顧客認証 (SCA) 規格をサポートするようになりました。これらの支払いゲートウェイインテグレーションのいずれかを使用している場合、3scale を 2.10 にアップグレードする前に、以下の点について理解するようにしてください。
 - Stripe とのインテグレーション: 3scale に Stripe を設定する手順に関するドキュメントは、まもなく利用可能になります。コンテンツが利用可能になったら、この通知を更新します。
 - **アップデート:** 3scale と Stripe のインテグレーションに関する詳細は、「[クレジットカードゲートウェイとしての Stripe の設定](#)」を参照してください。
 - Braintree とのインテグレーション: 3scale 2.10 と Braintree を統合する場合、Braintree アカウントが 3DS バージョン 2 に対応するようにしてください。

6.2. 非推奨の機能

- RHEL7 および Docker のコンテナとして実行される APIcast デプロイメントのサポートは非推奨になりました。今後のリリースでは、RHEL8 のみがサポートされます。Self-managed APIcast をコンテナとして実行している場合は、RHEL8 および Podman に移行することを推奨します。

6.3. 廃止された機能

- Oracle 12c に対するサポートが Oracle 19c に置き換えられました。

6.4. 今後の変更

- 現在、Proxy Update を使用すると、ステージング環境用に、設定が更新された新たな APIcast 設定バージョンが作成されます。ただし、今後のリリースでは、これが変更されます。ユーザーは、この目的のために新たな Proxy Config Promote エンドポイントを使用する必要があります。
- Redis 3.2 に対するサポートは、今後のバージョンで削除される予定です。

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。